



保育科 特任教授

佐藤 喜美子 (さとう きみこ)

Sato Kimiko

自己紹介 (プロフィール)	<p>公立の中学校に40年間勤務してきました。この間行政(山梨県教育委員会義務教育課や総合教育センター)勤務が10年でした。学校現場経験者として思うことは『先生との出会い』が如何に大きいかということです。</p> <p>今私の宝は今もつながる教え子たちの存在です。今年の4月で本学の勤務は2年目に入りました。本学の学生の皆さんと出会い、実践力ある『先生の卵』を育てることが、私の何よりの目標です。</p>
学生へのメッセージ	<p>夢を見つけること(発見) 努力を続けること(継続) 夢を諦めないこと</p> <p>20代で汗を流さないと、40代で涙を流すことになる</p> <p>30代で知恵を出さないと、50代で部下が居なくなる</p> <p>40代で人脈を培わないと、60代で仕事が来なくなる</p> <p>50代で人望を集めないと、70代で孤独になる</p> <p>学生の皆さん、若い今こそ、夢に向かって 努力と行動を!</p>
保有学位	
保有資格・免許	中学校教諭一種免許状(国語)
研究分野	国語科教育指導法 教職入門 学級経営について
主な担当科目	国語科教育法 日本語表現 保育内容(言葉) <専>
学内での活動	
学外での活動	山梨国語教育実践研究会 会長(平成23年~) 山梨国語教育実践研究会 顧問(平成27年~) 山梨県母と女性教職員の会 助言者(平成20年~) <中高思春期問題> 山梨子ども図書館会員(平成26年~) 文字・活字文化推進機構主催朗読指導者養成研修会会員(平成29年~)
所属学会	

主な職務実績（抜粋）

事項 (単独・共同)	年月日	概要
(教員研修会) 山梨県総合教育センター 国語科研修会：講義：講師（単独）	H26. 7	山梨県の小学校 中学校 高等学校の国語科教師を対象として「明日に生きる国語科教育・書くことの領域における指導改善の在り方」について、過去の実践事例も紹介しながら、その具体的な指導の工夫と改善について指導した。 (山梨県総合教育センター主催、於：山梨県総合教育センター) 平成 10 年からこの国語科研修会の講義講師は継続している。書くことの領域、話すこと・聞くことの領域、読むことの領域、言語事項の領域、及び、国語科における読書指導の在り方 書写指導の在り方などを年度でローテーションしてこの指導を 20 年継続指導してきた。
(教員研修会) 文部省・文部科学省主催 の研修会 (事例発表は単独)	H. 5. 6. 7 H14、8 H, 15. 8	文部省主催の「運営改善講座」にて、中学校国語科指導の「書くこと」領域の実践事例発表を長野県 岩手県 茨城県会場で行った つくば教員研修センターにて、全国評価研修会「学習と評価について」相対評価から絶対評価への円滑な移行のための具体的な方策を事例とともに発表した 文科省調査官と一緒に 香川県 新潟県で「学習と評価について」相対評価から絶対評価への円滑な移行のための研修会にて具体的な方策を事例とともに発表した
中央教育審議会教科別審議委員（委嘱：単独） 学習指導要領改定作成協力者（委嘱：単独） 常用漢字改定に伴う専門家会議委員（委嘱：単独）	H16. 4～ H20. 3 H18～ H22, 6～	中央教育審議会教科別専門部会・国語科部会審議委員としてかかわる。 中学校国語科新学習指導要領の改訂作成協力者として作成の仕事にかかわる。（平成 20 年告示の現行学習指導要領中学校国語） 常用漢字表改定に伴う学校教育上の対応に関する専門家会議の委員として委嘱。
(教員研修会) 中央市田富北小学校校内 研修会で助言講師（単独） 笛吹市一宮中学校センター 校研究プレ公開授業の 指導助言（単独） 笛吹市教育協議会センター 一校公開一宮中学校（単 独） 甲府市玉諸小学校校内研 修会で助言講師（単独） 東山梨教育協議会国語科 教育研究会講師（単独）	H27. 6 H27. 10 H28, 10 H27. 11 H28, 8	主体的意欲的に取り組む子ども、聞いて友達の考えのよさに繋ぐ子ども、進んで書いたり話したりする子どもを育てるための『話すこと・聞くこと』の指導方法 学習方法をどう工夫すればよいかについて講義を行った。 中学校 2 年生の『話すこと聞くこと』の授業で、お互いが調べたことを聞き合い、意見の差異を知り合いながら、説明説得する学習について指導助言。 中学校 2 年生の古典の学習指導「教訓・日めくりカレンダーをつくらう」を通して、主体的・対話的な学びを意図した授業改善について指導。 「確かな学力」を身に付け、意欲的に学ぶ子どもの育成を、国語科の書くことの指導の在り方を軸にどのような方法手立てがあるかについて指導。 思考力、判断力、表現力を育む国語科の指導について言語活動の充実を通して指導した。

(教員研修会) 笛吹市学校図書館教育研究協議会学習会講師(単独)	H27, 5 H28, 5	学校図書館を活用した学習指導や諸活動の具体的実践の工夫について、事例をもとに指導した。
東山梨 学校図書館教育研究協議会学習会の講師(単独)	H27. 8	学校図書館を活用した学校教育諸活動の活性化についての具体方策について指導した。
笛吹市立一宮北小学校校内研究会・学習会講師(単独)	H 28, 6, 7	自分の思いや考えを表現し生き生きと学び合う子どもの育成について志津助言 小学校3学年国語の研究授業への指導助言 小学校6学年国語の鳥獣戯画を読んで書く授業作りへの助言

主な教育研究業績(抜粋)

著書、学術論文等 (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等	概要
説明的な文章からの目的的学习を通して論理的文章表現力を育てる指導の工夫」(単著)	H9, 2	山梨県総合教育センター研究冊子	本研究は、教育課程の基準の改善の基本方向についての中間まとめの国語の現状と課題及び改善の内容にも載った「自分の考えをもって筋道立てて表現する力が十分でない」状況に目を向け、生徒に論理的文章表現力を培う指導の在り方についての具体的な手だての追究を課題としている。 この課題解明のために、説明的文章を教材として、そこから「何を・どう書くか」という主体的・目的的学习を展開することで論理的思考を促し、論理的文章表現力の育成に迫る指導の在り方の追究を試みた。(なお、この研究は2群法を用いて、実験群2学級：比較群2学級を使って、全9時間ずつの研究授業を行い、事前事後の実態を検証し、結果分析によりまとめたものである。) 研究協力校：八代境川中学校組合立 浅川中学校 平成9年度 第2学年 生徒134名 (著者名：佐藤喜美子)
国語科とのコラボでつくる！書写の新授業モデル モデル1「行事の案内文を書こう」 モデル2「書式に合わせて見やすく記録しよう」(第1学年)」(共著)	平成23年10月	明治図書 「書写スキルで国語力をアップする！新授業モデル」 中学校編 全134頁	全体概要) 「書く力」を育てるには、単にお手本を写すだけというこれまでの書写授業からの脱却が必要である。書く目的と読む相手に応じて、的確に書く力が身につく、書写指導や新しい書写授業モデルを掲載した。 (担当部分概要) p. 28～p. 42 「第3章 国語力もアップする！中学校書写の新授業モデル 15」「2 国語科とのコラボでつくる！書写の新授業モデル 6」 モデル1「行事の案内文を書こう」 モデル2「書式に合わせて見やすく記録しよう」(第1学年)」PCやワープロでは味わえない手書きの味わいに気付かせるとともに、実生活に活きる書写学習を実感させること

<p>「3 「国語に関する世論調査」を読む」(共著)</p>	<p>平成 23 年 5 月</p>	<p>明治図書 『〈単元構想表〉でつくる！ 中学校新国語科授業 S T A R T BOOK 第 1 学年』 全 1 4 2 頁</p>	<p>(全体概要) 教材ありきの従来の授業観を脱し、付けたい力を明確にして、「言語活動を通して指導事項を着々と指導する」ための手順をわかりやすく示した指導細案&略案集 (担当部分概要) p. 106～p. 107 『「II 成功する国語授業！言語活動のすべてが分かる最新モデル」(3) C 読むこと「3 「国語に関する世論調査」を読む』』 世論調査の表やグラフを見て、どういう事実があつてどのようなまとめがあるのかを読み分けて、目的に応じて、要約したり要旨をまとめたりする。 表やグラフが、文章のまとめにどんな効果をもたらしているかについて気づいたことをまとめる。 国語に関する世論調査の中から、日本語をとりまく話題を 1 つ取り上げて、自分のものの見方考え方で大きく変わったことをまとめる。</p>
<p>「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導のポイント」(共著)</p>	<p>平成 23 年 2 月</p>	<p>明治図書 「中学校国語科新授業モデル」 全 1 2 0 頁</p>	<p>(全体概要) 平成 20 年 3 月に告示された中学校新学習指導要領の国語科が目指すべき授業の在り方について、具体的な授業モデルを示すことで、国語科教員の授業づくりの一助となることを目的としている。 (担当部分概要) p. 16～p. 21 第 2 章伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導のポイント ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項のねらい ・3 領域との関連にかかわる指導上の留意点について ・言葉の特徴やきまりに関する事項の指導上の留意点について コラム① P 39 『授業における読書指導で古典をどう使う』 コラム② p 79 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導を 3 領域の言語活動にかかわらせた実践構想 コラム③ p 94 書くことの指導と伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導の関連学習構想 コラム④ p 108 読むことの指導と伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導の関連学習構想 コラム⑤ p 118 漢字が苦手な中学生の指導 (編著者名：河野庸介、佐藤喜美子)</p>

『中学校国語科の「書くこと」の授業改善』（共著）	平成 22 年 11 月	明治書院 「日本語学」 (2010 年 11 月号) 全 1 2 0 頁	<p>(全体概要) 新学習指導要領のねらいを踏まえて、国語の授業改善をどうするのか(特集) (担当部分概要) p 24～p 43</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 書くことの現状の課題は何か 2 新学習指導要領は何を求めているのか 3 書く力を育てる具体的・日常的な手立てとしての全校的取組について 4 書く力を育てる具体的・日常的な手立てとしての国語科の取組について 5 授業改善例 事例 1・中学校 2 年「書くことの言語活動例ア」を取り立てた指導の場合 6 授業改善例 事例 2・中学校 3 年「書くことの言語活動例ア」を取り立てた指導の場合 7 これからの「書くこと」の指導の留意点について
『読むこと』の言語活動の開発：説明・記録の読解・引用	平成 22 年 5 月	東京法令出版 「月間国語教育別冊」魅力ある言語活動の開発事典 2010 年 5 月号 全 1 4 8 頁	<p>(全体概要) 新学習指導要領の「内容」に示された言語活動例について、現場で具体的にどのような授業が展開できるかという課題をめぐって、これまでの実践の成果に即した提言を収録し、国語科の授業の充実・改善に、全国の多くの国語科教師の参考に資するよう、解説している。 (担当部分概要) p 70～p 73</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実の場に生きる読解・引用 2 文章と図表の関連を考えて読む指導 3 引用に関する指導 4 言語活動例の具体化(指導の実際Ⅰ) 5 言語活動例の具体化(指導の実際Ⅱ)
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について」	平成 21 年 2 月	ぎょうせい 「平成 20 年改訂中学校教育課程講座国語」 高木まさき編 全 2 6 0 頁	<p>(全体概要) 平成 20 年度改訂 中学校学習指導要領から教育課程の編成をするにあたっての現場の質問に応える形式の特集 (担当部分概要) p 116～p 141</p> <p>第 6 章 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 Q: 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の系統性はどのようにになっているのかまた各事項のポイントは何か Q: 敬語の指導はどのように進めればよいのか。また、文化審議会答申「敬語の指針」の内容をどのように指導すればよいか。 Q: 語感を磨き語彙を豊かにするためには、どのような指導の工夫が考えられるか Q: 表現の技法に関する事項が第 1 学年に設けられているのはなぜか。また小学校における指導との違いは何か</p>

「新しい年間指導計画の立て方」	平成 21 年 1 月	明治図書 「新中学校国語科 重点指導事項の 実践開発」 河野庸介編 全 1 2 7 頁	(全体概要) 新学習指導要領中学校国語の全面実施にあたり、その理念について解説し、国語科に求められる各教科の学習に役立つ言語能力を育成する基幹教科としての役割を果たすための重点指導事項について例を示して解説している。 (担当部分概要) p 120～p 127 Ⅲ新しい年間指導計画の立て方 1：年間指導計画の作成の考え方 2：第 1 学年の年間指導計画例 3：第 2 学年の年間指導計画例 4：第 3 学年の年間指導計画例
「国語科の改善のポイント」	平成 20 年 12 月	明治図書 「改訂学習指導要領準拠： 中学校教育課程編成の手引」 工藤文三編 全 1 3 6 頁	(全体概要) 新学習指導要領全面実施を控えた新しい中学校教育課程の編成のための手引 ・新時代における教育課程編成 ・教育課程編成の重点課題（如何に具体化するか） ・教育課程編成のステップ ・授業時数の設定と時間割の工夫 ・各教科等の指導計画作成 (担当部分概要) p 95～p 98 ・国語科の目標 内容 内容の取り扱い等の基本事項を踏まえて、国語科改善のポイントについて ・指導計画作成上の配慮事項について 改善の趣旨を生かした指導の工夫について ① 伝統的な言語文化に親しむ指導と国語の特質に関する指導の親切 ② 必要に応じて取り立て学習を計画的に実施 ③ 学習の見通しを立てたり、学習の振り返りをしたりする指導の工夫 ④ 特に改訂された事項の指導計画例
「言葉の特徴やきまりに関する指導事項」	平成 20 年 12 月	明治図書 「中学校 新学習指導要領の展開 国語科編」 河野庸介編 全 1 9 8 頁	(全体概要) 国語科における、新学習指導要領の展開にあたり、これからの授業づくりの工夫についての解説版 (担当部分概要) p 123～p 127 ・言葉の特徴やきまりに関する指導事項における、言語生活を高める意図をもった指導と授業作り 1 自らの言語生活を振り返る時間を

			<p>2 日常的に語感を磨くための『語彙ノート』作り</p> <p>3 言葉のきまりの体系的学習のすすめ</p> <p>4 『接続詞カード』を持たせて読むことの学習</p> <p>5 『表現に学び生かすノート』の工夫</p> <p>6 国語科の役割・役立つ国語科という意識をもたせるために学習の見通しと振り返りを位置づけ、他教科や生活に生きることを自覚させる</p> <p style="text-align: center;">p 179～p 186</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古典指導の課題と古典の授業モデル ・ 書写指導の課題と書写の授業モデル
「言語活動の充実を図るための言語環境の整備」	平成 20 年 11 月	教育開発研究所 2008 年 11 月 『教職研修総合特集』「各教科等における言語活動の充実—その方策と実践事例」 高木展郎編 全 2 4 4 頁	<p>(全体概要)</p> <p>新学習指導要領の一つのポイントとなる言語活動の充実についての特集</p> <p>(担当部分概要) p 39～p 41</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科における言語活動の充実を図るための言語環境の整備について ・ 言語の感覚を磨くために国語科から発信 ・ 日常の言語生活の見直しと環境整備への努力 ・ 各校の実態を踏まえ、よりよい言語環境の構成に努力
「確かな学力について」「伝え合う力について」	平成 19 年 5 月	東京法令出版 「月間国語教育別冊」国語科 重要用語辞典 2007 年 5 月号 全 1 4 8 頁	<p>(全体概要)</p> <p>改訂学習指導要領を踏まえての、国語科重要用語の解説版</p> <p>(担当部分概要) p 18～p 19</p> <p>：確かな学力について</p> <p>キーワード：国語科の基礎・基本</p> <p>：運用活用能力を鍛える授業</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「生きる力」をはぐくむために 2 国語科で身に付けさせたい力 3 国語科の基礎・基本 4 言語力と言語の運用能力を鍛える授業 <p>：伝え合う力について</p> <p>キーワード：話すこと・聞くことで伝え合う 書くことで伝え合う 読むことで伝え合う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国語科で伝え合う力を鍛える 2 「話すこと・聞くこと」で伝え合う学習 3 「書くこと」で伝え合う学習 4 「読むこと」で伝え合う学習
「説得力のある文章を書く指導」	平成 17 年 2 月	明治図書 「細案・略案で見る中学校新国語科授業プラン集」第 3 巻 全 1 4 5 頁	<p>(全体概要)</p> <p>限られた授業時数で生徒に言語能力を育成するには日々の授業を魅力的なものとし生徒をして国語科の学習を好きにさせつつ授業のねらいを確実に実現することが不可欠である。そこで適切な計画・実施・評価を通じて授業を改善す</p>

			<p>る必要がある。この進行過程に沿う指導の提案をしている。</p> <p>(担当部分概要) p 68～p 78</p> <p>書くことの必然性を学習の中に如何に実現するかで生徒の学習への関心意欲は大きく変わる。そこで地域ふれあい集会で実際に配付する意見文を書くことを言語活動のゴールに位置づけて学習をスタートした。更に大事な学びとして、何をどのように書くか 7 つの視点を示して指導の方法手立てがきちんと見える学習を計画した。</p> <p>メモを取るような場面は生活の中にも様々にあるので、学校の全体計画を見通し機会を逃さず国語科の年間計画に位置づけ。限りある授業時数を効率よく使うこと。またこのメモをもとに自分が伝えたいことを発表する実の場を位置づけることで、生徒の学習意欲や関心を高めて、生徒自身が感動したことの中から伝えたいことを選んで書いて最終的には発表することとする。</p> <p>略案 1 『私の伝えたいこと』 略案 2 『感動をあなたに・・・何を伝えるか』</p>
<p>特集：国語科単元学習と総合的な学習の時間 「総合的な学習の時間を支える国語の力」</p>	<p>平成 17 年 4 月</p>	<p>日本国語教育学会 「月刊国語教育研究」2005 年 4 月号 No.396 全 6 8 頁</p>	<p>(全体概要) 特集のテーマである「国語科単元学習と総合的な学習の時間」にかかわっての解説や提言 (担当部分概要) p 16～p 21 総合的な学習の時間を支える国語の力として、1、今も生きている教えのこと 2、教え子からの手紙に気づかされたこと 3、国語科で育成すべき言語能力が問われていること 4、確かな国語の力を育成するために為すべきこと 5、総合を支える「国語の力」の育成が喫緊の課題であること 6、実践構想；「読むことの」の指導例：比較して読むこと 7、教育課程の編成の具体的工夫について 8、人間として生きるために考える子どもを育てたい</p>
<p>「通信簿を生かした国語科の評価方法と説明責任」 「指導要録記入のための国語科の評価方法と説明責任」</p>	<p>平成 16 年 1 月</p>	<p>明治図書 2004 年 1 月 「中学校国語科絶対評価の方法と実際」 花田修一編 全 1 2 0 頁</p>	<p>(全体概要) 中学校国語科の新しい絶対評価のあり方について、その方法と実際とを明らかにした。 (担当部分概要) p. 112～p. 120 第 4 章 § 4：通信簿を生かした国語科の評価方法と説明責任 § 5：指導要録記入のための国語科の評価方法と説明責任</p>
<p>伝え合う力の育成につながる「国語科の学習評価」</p>	<p>平成 16 年 12 月</p>	<p>ニチブン 「中学校国語科教育：CD-ROM 授業実</p>	<p>(全体概要) 指導の在り方とその評価の方法は表裏一体の関係にあり新しい評価方法の開発が求められていることを受けて、その考え方や評価計画や観</p>

<p>「観点別学習状況の評価の総括の考え方とその手順」</p>		<p>「実践資料集」理論編3 北川茂治監修・相澤秀夫他9名編集 全196頁</p>	<p>点別評価・評定の考え方などを具体的な例とともに解説した。 (担当部分概要) p. 37～p 49 第4章 2：観点別学習状況の評価の総括の考え方とその手順についての解説 1 はじめに：評価の客観性について 2 観点別学習状況の評価「A」「B」「C」3単位時間の評価の累積から 4 学期末・学年末の評定の仕方 ：具体的資料の掲載 ① 単元の評価を出す場合の具体例 ② 学期末・学年末の評定を出す場合の具体例 ③ 評価規準の具体化の系統表 ④ カルテの工夫 ⑤ ワークシートの工夫</p>
<p>鼎談 「新しい国語科(2)ーこのように実践する・実践できる」</p>	<p>平成14年1月</p>	<p>明治図書 「実践国語研究」2・3月号 全140頁</p>	<p>(全体概要) 平成14年度から全面実施される中学校学習指導要領の国語科における実践課題を文部科学省井上一郎国語課調査官、古川元視佐賀県教育委員会指導主事との鼎談し、国語科教育の実践について述べた。 (担当部分概要) p 77～p 85 平成14年度から全面実施される中学校学習指導要領について、下記の点を踏まえながら文部科学省井上一郎国語課調査官、古川元視佐賀県教育委員会指導主事との鼎談を行った。 ① 移行期2年目の問題点、② 子どもの実態の把握の遅れ、③ 年間指導計画の作成・問題点、④ 教科書と単元と指導時数、⑤ 言語活動例の位置づけ、⑥ 校内研修での具体化、⑦ 授業をファイリングする<学校図書館の利用>、⑧ 教材の開発と総合的な学習の時間、⑨ 国語科の良さ・楽しさ・豊かさ、⑩ 一人一人に応じた評価記録</p>
<p>『「言語活動例」を活用した授業モデルー報告や意見発表などのために簡潔で分かりやすい文章や資料などを作成することー』</p>	<p>平成13年11月</p>	<p>明治図書 2001年「中学校新国語科の授業モデル」(第2巻(「書くこと」編)河野庸介編著 全116頁</p>	<p>(全体概要) 本書は、改定学習指導要領の趣旨を踏まえ、授業改革のためのモデルとなるような実践事例を領域別に提示し、国語科教師が目指す新しい授業の創出に役立つことを願って編集したものである。また、平成14年度から用いられる改訂生徒指導要録に対応するため、「目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)」を適切に取り入れられるよう、その基本的な考え方や具体的な手だてについて、指導と評価の一体化をめざし、「評価の在り方」として記述した。 (担当部分概要) p 38～p 45 報告や意見発表等のために簡潔で分かりやすい文章や資料を作成する学習指導について ・報告します・私はこう考えます A：「1冊の本が人をうごかすとき」</p>

			<p>B:「愛ある言葉が人間関係づくりに」 AかBのいずれかを自主選択する 伝える相手は 後輩の中学1年生か地域の高校生か新聞社への投稿</p> <p>＜生徒の意欲付けをねらいまた明確な目的意識や相手意識をもたせるため＞Aの工夫:学校図書館の読書カードやこれまでの読書記録を振り返って 白湯分析と資料化を行い学習のゴールは『自分が一番感動した本についての紹介』 Bの工夫:日常のテーマにかかわる新聞の切り抜きや文化庁言葉シリーズなどを使って調査し、学習のゴールは 『自分の体験を踏まえて「愛ある言葉が人間関係形成に及んだ事例の報告」</p>
「生活科、総合的な学習との関連」	平成12年4月	国土社 『キーワードでわかる新国語科』 全191頁	<p>(全体概要) 「伝え合う力」を高めることを目標に掲げた新学習指導要領国語科のポイントを10のキーワードで取り出し、わかりやすく解説した。また、どのように実践にいかせばよいかを、授業構想として示した。 (担当部分概要) p.177～p.191 第2章 ⑩生活科、総合的な学習との関連 切実に求められている言語能力の育成と国語科の責任、また課題意識がもてる力の育成を負う国語科は総合的な学習の時間を底辺で支える教科としてどうあるべきか ① 一人一人に自己課題を如何にしてもたせるか(気づきの手立て) ② 教育課程編成の工夫(学校行事や全教科の指導計画を視野に入れて)総合的な学習への糸口となる学習の提案</p>
第4巻 記録・報告の学習 「学びの中から記録する 生活の中から記録する」	平成12年2月	明治図書 『新国語科「言語活動例」の具体化』 全6巻 第4巻:全157頁	<p>(全体概要) 「言語活動例」の具体化を通して身に付けた児童生徒の「言語能力」が、他教科や「総合的な学習の時間」に活用されたり日々の学校生活や家庭・地域社会の中でも活用したりできること等を視野に入れ、小学校、中学校及び高等学校の実践事例で構成した。 (担当部分概要) p.50～p.59 Ⅲ「記録・報告の学習」の展開 中学校1 「学びの中から記録する 生活の中から記録する」 伝え合う言語能力は相手意識、目的意識などに支えられる。自分の考えを伝えるためには日常の思考過程が不可欠である。これなくしては、伝えたいという心の高まりは生まれない。そこで「学びの中から記録する・生活の中から記録する」という言語活動をしくみ「書くこと」の領域の指導の展開を図った実践。</p>

<p>「個人カルテ」を使って評価を工夫した作文指導</p>	<p>平成 9 年 3 月</p>	<p>ニチブン 「中学校国語科教育実践講座」豊かな表現力を育てる学習指導：第 5 巻 (表現：作文 2) 全 3 1 8 頁</p>	<p>(全体概要) 作文教育の 3 つの今日的課題①「社会の変化に主体的に対応して生きる子どもたちを育成するための作文教育とは」②「生涯学習にかかわる自己教育力を育成する作文教育とは」③『『生きる力』と作文教育とのかかわりとは』を踏まえて、第 5 巻では、読みと関連させた作文指導と日常の言語生活における書く活動とに焦点を絞り実践面と理論面の双方からその課題と解決について追究している (担当部分概要) p229～p233 書き手自身の手による推敲と鑑賞を通して、作文を評価する力を身につけさせ、作文力向上への糸口にしようと考えた実践である。 カルテの 25 項目の中の、どの項目が今回の到達目標かを理解させる。 カルテ 25 項目の中から取り立てた項目について自己評価をする。 項目に◎がつけられる根拠になるところに傍線をつけることを指導する。 ◎が付かない項目を頭に入れて次に自分が文章を書くときに意識するよう意欲付けをする。 生徒が自分の作文カルテを常に持っていることで、作文のどの項目の評価が落ちているかを自覚できるため、次へと指導者もつなぐことができる。</p>
<p>少年の日の思い出 全授業記録（共著</p>	<p>H1, 2</p>	<p>明治図書</p>	<p>浅川中学校の 1 年生の学級で、少年の日の思い出の授業を行い、その全 9 時間分の授業内容記録を掲載</p>